

小学校

光村ポケット生活

わたしの

実践アイデア



「もっと大すき
ぼくらの学校」

実践 File
vol. 1

新潟大学附属新潟小学校
大図俊哉先生のご実践から

1年 内容 (1)「学校と生活」

LINE公式アカウント友だち募集中!



授業づくりに役立つ情報を、
いち早くお届けします。



光村図書

【教授用資料】本資料は、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」に則って作成したものです。

「もっと大すき ぼくらの学校」(1年)

新潟大学附属新潟小学校 教諭 大図俊哉

学校探検は、入学直後の1年生にとっては大冒険です。やる気いっぱいな子ども、慣れない学校生活にとまどう子ども、みんなが安心して活動するためのヒントを、実践をもとにご紹介します。

活動の流れ 実施時期 4月～6月 | 時数 20時間 | 内容 (1)「学校と生活」

小単元名	時数	学習活動
学校たんけんで「？」を「！」にしよう	8	- 学校の疑問「？」を集めて、確かめに行く。 - 気づいたこと「！」を伝え合う。
学校のちずやもけいをつくろう	4	- 見つけたものや場所、人などを、地図や模型に表す。 - もっと知りたいことについて、インタビューを行う。
学校の「すき」や「すてき」をまとめよう	5	- 調べた学校のお気に入りや絵や文で表す。 - 保護者に発表する見通しをもつ。
学校をかぞくにしようかいしよう	3	- 模型などの表現物を使い、保護者に発表する。 - これまでの学習を振り返る。

アイデア

1

単元開きの工夫

素朴な疑問から学校探検を始める

学校探検のきっかけにするのは、児童が抱く素朴な疑問です。そのために、入学したその日から、児童の何気ないつぶやきを拾い集めていきました。

「先生、お遊戯室はどこ？」「ブランコで遊べる？」など、疑問をつぶやいた児童がいれば、まずはわからないことを素直に言えたことを価値づけます。そしてそれらを「がっこうの『？』」として、模造紙に書きためていきました。いくつか集まったところで、教師が「この『？』を

どうしたい？」と問いかけると、児童から「みんなで確かめに行きたい！」という声が上がります。学校探検が始まりました。はじめは、「？」を一つずつ解決していくためにクラス全員でいっしょに探検しましたが、何度か探検を重ねるうちに、しだいに一人一人が自由に探検するようになりました。それぞれが自分なりのこだわりや思いをもちはじめたようです。

アイデア

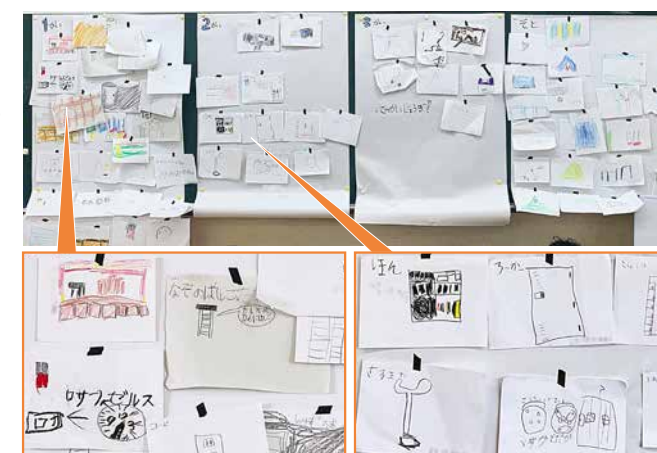
2

表現方法の工夫

立体模型作りを通して「人」に注目する

活動を通して学びがしだいに深まっていくように、表現活動を段階的に設定しました。まずは、探検で気づいたことを、簡単な絵や言葉でカードに記録していきます。その後、模造紙を用意して、カードを平面図に整理できるようにしました。カードと模造紙はいつでも追加できるように教室内に設置し、自由に使ってよいことを児童に伝えたと、一気に模造紙が埋まっていきました。

ある程度模造紙が埋まった段階で、教師が厚紙をさりげなく設置しました。休み時間に児童と遊びながら、厚紙に切り込みを入れて折り、自立させる方法をやってみせたところ、児童から「今度は立体的な学校の模型を作りたい。」という声が上がりました。



探検で見つけたものをカードにかき、見つけた場所ごとに「1階」「2階」「3階」「外」の模造紙に整理した。それぞれカードには、「なぞのはしご」「がっこうのどけい」「ほん」「メダカ」などが記録してある。

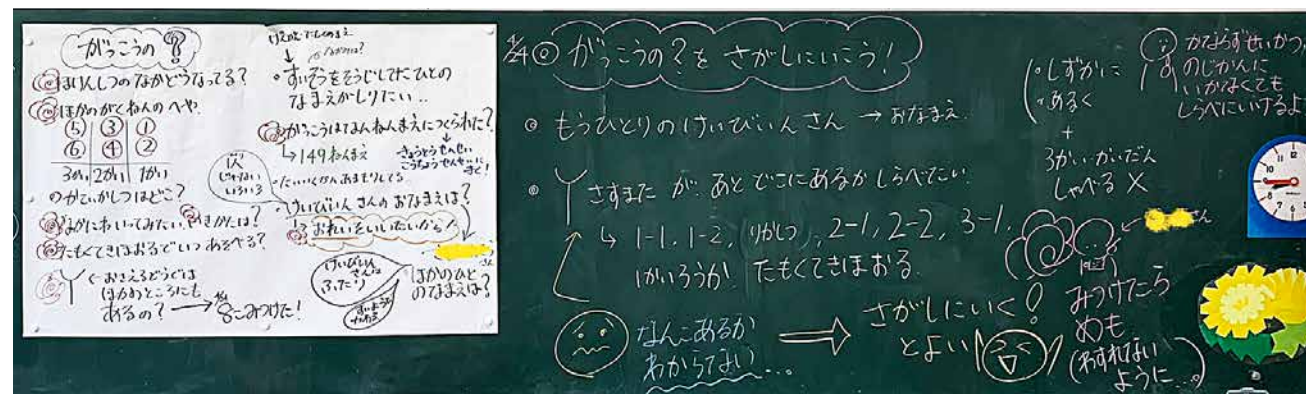
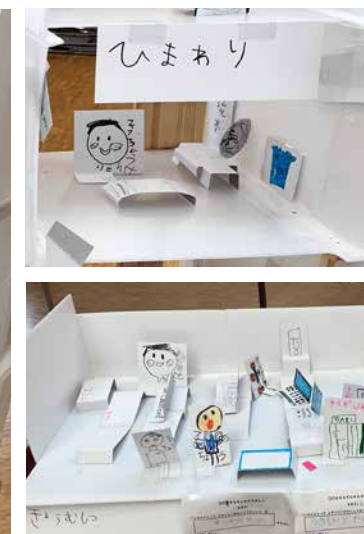


探検で見つけたものや出会った人を厚紙で作し、それぞれの教室に配置する。

立体模型のよさは、活動自体が楽しいだけでなく、作った人や物を本物のように配置できる点にもあります。人形遊びの要領で、人の模型を作る発想に至りやすいので、物や設備だけでなく、「そこにいる人」にも着目しやすくなりました。また、立体模型では、発見が多い場所は人や物の模型が多く配置され、発見が少ない場所は空間が目立ちます。そのため、「ここには何があるかな、誰がいるかな。」など、新たな疑問が生じやすく、再度探検に行く意欲を引き出す際にも役立ちました。



完成した立体模型。各部屋には黒板や本、水槽など、探検で見つけたものが配置されている。また、どの部屋にも「〇〇せんせい」「〇〇さん」など、探検の中で出会った人々が配置されている。

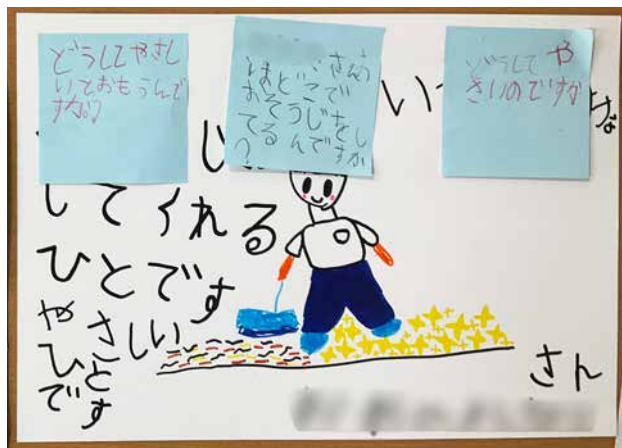


本単元導入場面の板書。集まった「？」を全体で確認し、探検の見通しをもった。

対話を通して気づきを深めていく

一通り探検を終えたタイミングで、調べたことを友達と伝え合う場を設定しました。その中で友達から、「〇〇先生はどんな仕事をしているの。」「どうしてその仕事をしているの。」などの質問をされた児童は、自分がまだ知らないことがたくさんあると気づきました。

その後、新たな疑問を解決するために、インタビュー活動を行いました。インタビューを通して児童は、学校にいる人々の仕事内容をより詳しく知り、その仕事に込めた思いに触れていきました。さらに、別の人にインタビューした友達との伝え合いを通して、人々の仕事内容



技術員の〇さんについて、友達から「どこで仕事をしているのですか。」「どうして優しいのですか。」などの質問を受けた。



立体模型を見せながら保護者に説明をする児童。

や思いに共通点があることがわかってきます。その結果、学校にいるたくさんの人々が、学校や自分たちのために働いてくれていることに気づくことができました。

単元末には、調べたことを保護者に伝える機会を設けました。保護者には、気になることを質問したり、児童のがんばりを認めたりしてもらえるよう依頼しました。保護者からの声かけによって、児童は、入学してからの学習に達成感を得るとともに、これからの学校生活への意欲や自信をもった様子でした。

教科書には こんな 工夫も

教科書には、生活科の学びを支える工夫が満載。
ここでは、編集部が特におすすめしたいポイントをご紹介します。

●活動を支える！学び方のヒント

探検に行く前に確かめたい、挨拶や話しかけ方の例を紹介しています。

この部分を見ながら、幼稚園や保育所等での経験を思い出したり、教室で練習してみたりすると、安心して学校探検に臨むことができます。



▲上巻p22「おはなしに いこう」



光村図書

教授用資料

発行者 吉田直樹
発行所 光村図書出版株式会社
〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9
電話:03-3493-2111(代表)

光村図書ウェブサイト

光村図書 | 検索

